

第1回綾部市創生有識者会議 議事録

日時 令和元年11月29日(金)午後1時30分～

場所 第1委員会室

日時 令和元年11月29日(金)午後1時30分～午後3時30分

場所 綾部市役所 第一委員会室

出席者 委員：岩崎拓也、佐藤泰志、四方憲生、滋野浩毅、白波瀬聡美、高倉正明、

田中重春、仲久保政司、前本和輝、三宅肇、山崎栄市、山崎清吾(12名)

部長：白波瀬市長公室長、吉田市民環境部長、大石福祉保健部長、上原農林商工部長、四方定住交流部長、四方建設部長、上原消防長、前田上下水道部長、四方議会事務局長、小林教育部長、吉田財務担当部長(11名)

事務局：企画総務部 岩本部長

企画政策課 東課長、村上担当長、中村囑託

欠席委員：岩崎拓司、松野孝彦、志賀由美子、山中史香

傍聴：京都産業大学学生2名、京都府職員1名

※配付資料

【資料1】第6次綾部市総合計画及び第2期綾部市地方創生総合戦略策定にむけたアンケート調査結果報告書(概要版)

【資料2】綾部市高校生意見交換会報告書

【資料3】一般財団法人青年会議所提言書

【資料4】綾部市総合戦略の総合的評価

【資料5】第2期綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案

1 開会

2 委員紹介

3 座長あいさつ

4 報告事項

- ・アンケート調査結果について
- ・綾部高校生意見交換会について
- ・一般財団法人綾部青年会議所による提言について
- ・第1期総合戦略の総合的評価について

各資料に関して事務局から説明を行った。各委員からの意見は以下の通り。

委員：資料1の意識調査に関する部分で、調査の対象者は無作為抽出で、高齢者の割合が高いという説明があったが、調査票を回収した中で、実際の各年代の割合との違いはあったのか。

事務局：調査票を配布した対象者としては、無作為抽出のため、実際の市内にお住まいの方の年齢構成とほぼ同じ割合となっている。しかし、ご回答いただき回収した中での割合としては、高

齢者の方からの回収が多くなっている。

委員：高齢者の回収率が高いのは、多くのアンケートでそういった結果が出るだろうという、自明の結果である。郵送ではない、異なる方法でのアンケートだと、働き盛りや若い世代の回収率が上がったのではないかと思う。

委員：資料1のアンケートの部分で「治安の良いまち」という意見が挙がっており、そういった部分は綾部市の強みとして活かしてほしい。だが、「日常の買い物が不便」「商業施設がない」といった意見もあった。中国の方でも実施されている、地方の田舎までワンクリックで配達できるような方策を、今後の取り組みとして進めていってほしい。冒険かもしれないが、ネット販売で売り上げを上げているお店も市内にはあるので、今後検討してほしい。

高校生の意見交換としては、環境問題・情報発信・奨学金制度が私の中で3つ中心としたい意見として挙げさせていただく。若い世代は環境問題には敏感であり、また奨学金制度についても、綾部市のこれまでのまちづくりの部分として、先進的進めてきた定住促進施策と合わせて、強みになっていける新たな機会となるのではないかと思う。また、情報発信の部分で「市役所の行動力が弱い」という意見があったが、私としてはしっかりやっているという印象を持っている。しかし、市として強みに変えていくべき項目に関する情報発信には、ある程度お金をかけていくことも重要であると思う。

事務局：情報発信の部分に関しては、昨日のワークショップでも意見が出ており、綾部市の魅力としての市内の資源について、市民が分かっていない、知らないという意見あった。「綾部学」といった言葉も出ており、情報発信をしっかりしていけないと感じている。

委員：ぜひ、今後進めていってほしい。

委員：福知山駅前を見ると、交流センターや公園等の施設・設備が駅前に集まっており、歩いて行ける範囲に子どもが集まることのできる場所がある。新しい図書館ができたり、そういった場所には、中学生くらいの子どものたくさんいる。言葉は悪いかもかもしれないが、子どもが「座ってだべれる」場所があることは大切で、綾部の駅前もそういった風になれば良いと思う。ヨーロッパにも「円村」という集落の形があり、教会を中心にして公園や商業施設が広がっており、それぞれが道で繋がって、人々が集まれる場所がたくさんある。ヨーロッパのものまではいかないまでも、綾部のまちの中心部に子どもたちが集まれる場所があること。スケボーができたり、バスケットゴールがあったり、放課後夕方以降に子どもたちが健全に集まれる場所があることは重要と思う。

委員：まずは、みんなが同じ方向を向いて進んでいくことが大事であると思うが、それぞれで事業を実施し、進む方向がばらばらという現状。

また、「魅力を感じる場所が少ない」というアンケート結果が出ている。「綾部市の魅力って何？」に対する答えとして、まちの中に自然以外の魅力があると良いなと思う。

委員：観光に関して発信する際に、綾部の魅力として、「田舎らしさ」が良いところ、「都会にはない不便さ」も魅力の一部、というように私どもは捉え、外の方にアピールしてきた。しかし、実際にまちに住む住民の方の考えとは異なっているのだな、と感じた。やはり住民の方にとっては、まちの賑わいづくり、産業の発展は大事な要素。市民ファーストという考え方、重要であると思う。

今後の観光については、産業観光の振興が必要と考えられる。観光することだけでなく、まちにお金が落ちる仕組みづくりが必要であり、そういった部分についてもシビアに考えてい

くべきと思った。

また、高校生との意見交換会の中に出ている、学生の願いとしての「サードプレイス」。この願いは重要視した方が良いと思う。子どもたちにとっての「自分たちのため居場所」が市の中にあって、子どもたち自身が市に魅力を感じていないと、大人になったとき、やはり市から出て行きたくなる。定住のことを考えると、住民自身が住む場所で満足していることが重要。そこを満足させるための施策を今後しっかり取り組んでいくべきだと感じた。

さらに、人口減少の話はたくさん出ているが、人口減少への適応策も大事と考えている方も多い。今後の考え方としてそういった視点も大事。

委員：「自然が豊か」が綾部市のイメージ。しかし「自然が豊か」なのは他の自治体も同じだと思う。その中で綾部は自然の豊かさを活かしきれていない。自然をどう活かしていけるかが大事な要素となる。神戸の方で行っている、自然を活かしたアクティビティのようなものが、綾部温泉の近くの場所でできるのではないかな。

また、市外の方から「河原でバーベキューがしたいのだが、どこかできる場所はないか」という質問を受けたのだが、ないと答えるしかなかった。バーベキューセットを持ち込めば、そこで1日遊べて、楽しめるような場所があれば良い。キャンプ場としての整備も検討しても良いのではないかな。自然を活かして人を呼ぶことを大事にしてほしい。

座長：アンケート、ワークショップ、提言等、様々な部分をベースにさせていただき、次の計画の策定に反映していきたいと考えている。そういった部分に関連して、事務局の方から計画の骨子について説明をいただく。

5 協議事項

・第2期綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案について

資料に関して事務局から説明を行った。各委員からの意見は以下の通り。

座長：この骨子案をベースにして、今後計画として作っていききたいとの考え。アンケート結果等反映できているか等も視点としてご意見いただきたい。2ページの部分の、ニーズ調査からの考察についてもご意見いただければと思う。

委員：綾部市はものづくりのまちであるが、中学生は「ものづくりのまち」という意識が薄い。今の中学生は、製造業最盛期の時代が終わってから生まれている。製造業について知ってはいるけど、それがどう「ものづくりのまち」に繋がるのかがよく分かっておらず、リアリティが薄い。「ものづくりのまち」としての、まじめにとことん極めていくものづくりの心を活かした人材育成、ものづくりが培ったまちのイメージブランディング。そういった部分が伝わりやすくなるように、現代流に読み替えて若者に伝えていく方策も必要と思う。

事務局：市ではふるさと教育の一環として、体験を通して綾部の企業を認識してもらったり、知ってもらうための教育を実施している。しかしアンケート、ワークショップ等で、魅力として伝わっていないという同じような意見が出ている。市民が市の魅力を知るための取組の必要性を感じている。

委員：「ものづくりのまち」としての綾部を知らない子どもが多い。工業団地を活用した観光の振興も必要であるが、市内の子どもたちが市内の企業を見て知ることも重要である。社会見学も市外でなく、市内の企業を見る機会にしても良いのではないかな。ビール工場等、観光としてもニーズの高いものもたくさんある市の工業団地を観光にも教育にも活かしていけると良

いと思う。

担当部長：綾部市は「ものづくりのまち」としての看板を上げているが、リアリティがないというご意見、その通りだと思う。企業に立地いただいているので、本当は働き場所としてもたくさんある。しかし、大人が考える昔からの「働く場がない」という意識が、そのまま子どもにも伝わってしまっているのではないかと考える。

既存企業の方に中学校での案内や講演もしていただけるよう働きかけをしている。学生に対し、一緒に働きましょう、働くときは市に帰ってきて、と呼び掛けてもらえるような取り組みを進めていきたい。また、企業ガイドのパンフレットについては、就職の会場で配るだけでなく、中学生にも配布するなどといった、取組が始められている。市には働く場所がたくさんあることを今後も広めていきたい。

座長：地元に戻ってきたいと考える方も多いと思う。親の意識や考え方にもよると思うが、帰郷を勧めない保護者もいる。しかし、今後も少子高齢化が進む中で、若い子が出てしまうことは仕方ないことかもしれないけれど、大学卒業後に地元に戻ってくるよう働きかけることは重要。特に女性が帰ってこないのが、少子化がさらに進行する恐れがある。

水源の里も10年後はどうなっているか分からない。10年後、今後といった部分への危機感を持つべきなんだろうと思う。まちづくりについて真剣に考えていくべき時代が来ている。人口の増加、まちの賑わいのためにも、地域の魅力をどう活かすか、どう発信するかを大事にしてほしい。

委員：全国的に求人の数は増えており、求職者は減っている。しかし綾部地域は、求職者は増えている状況。特にフルタイムを希望する求職者が増えている。また、高齢者のパートタイム雇用数が多いので、就職決定数が多く、増加傾向となっている。

綾部市は求人として、高校生や新卒の求人もあるにはあるが、数が少なく、本社に確認しないと分からないという会社もある。また、正職員の求人も少ない状況。そういった部分が、今後、景気として下り坂となることもあり、不安な要素となっている。

座長：パートタイムで働く方は女性が多いのか。

委員：30～40歳代は女性が多い。しかし、高齢者では男女どちらもいらっしゃる。

座長：扶養の上限までで働きたいという希望を持つ方もいるだろう。そういった方の希望は通るものなのか。

委員：人が足りず、まずは人手を確保したいという企業さんは、そういった部分に柔軟な対応をしていただくことも、相談することも可能だろう。企業による部分が多い。

委員：幅広い人材への就労支援、女性や外国人への就労支援として、どういう風に対応していくことをお考えか。今のビジョンとして何かあるか。

事務局：社会動態の中で外国人の人口が増えている。実習生も多いと思うが、その方々への就職支援としては、語学教育や地域へのとけ込み支援といった、側面的な支援を考えている。

委員：外国人が増えるのは間違いないが、外国人を受け入れることのできる企業が増えるかどうかは分からない。外国人労働者の受け入れ状況は、企業の考え方による部分も多いと思う。それぞれの企業が外国人を受け入れられるような体制が整うのか。企業への支援も視野に入れ、企業と一体的に取り組むを進めてほしい。

委員：多様な就業機会の創出も必要。これからのことを考えると多様な働き方についても考えていくべき。副業をしている方や、農業とガイドといったように複数の仕事を収入源としている

方も増えている。フルタイムでない働き方も含めた考え方、働き方に対しても柔軟な対応をしていってほしい。

委員：「ものづくりのまち」として工業団地ができたとき、「観光にもなりうる工業団地」というコンセプトのもと、工業団地の整備が進められ、団地全体を見渡せる展望台も何か所かある。そういった部分が市民にPRできていない。グンゼとかは知っているが、他のものになると市民の意識が薄い。

製造品出荷額に関して、福知山市や舞鶴市は基幹産業の占める割合がとても大きくなっているが、綾部市はグンゼ等と工業団地でのバランスが取れている。そういった部分もPRしていけると良い。

商業施設がないという不満が、高校生からの意見として出ている。しかし、そういった不満は昔からあって、昔と比べコンビニやドラッグストア等が増えてきても、同様に不満は残る。そういった商業施設は1つのまちで完結することは難しいのではないかと感じる。

他の市町からの印象として綾部市は、突出したものがあるわけではないが、商業が疲弊しているわけでもなく、工業も歴史もあり、リーディングカンパニーもあって、料理旅館も多く残り、観光としても強い、バランスの良いまちであるとのこと。こういったバランスが取れていることをPRしていけると、綾部に対する意識や考えが変わっていくのではないと思う。

委員：綾部市のこれからの考えるときに何が問題か考えると、〇〇離れが問題だと思う。そういった部分を計画としてしっかり記載していくべきであると思う。

また、綾部への意見として不足ばかりが出ているけれど、まちとしてバランスは良いのは間違いない。水道代が高いから福知山へ転居する話も聞いたが、もったいない。転勤してきた私としても住みやすいまち。人が良いといった住みやすさの根本があるまちである。

委員：日東精工の社長の話で、綾部を第一に考えていることを話していた。なぜ綾部市に会社があるのかという話から始まり、地場企業が心強いと感じているという話となった。そういった地場企業への応援・育成支援も大事にしていってほしい。起業家への支援も含めて、「地元から生まれてきたもの」を大事にする姿勢が計画に反映していければと思う。

委員：綾部には良い資源がたくさんあって、仕事としても、女性活躍の部分がしっかりとある。若い女性にとっては配属先の異動が続くのはつらいとこのことで辞めてしまう方も多。ものづくり＝男性のイメージもあるが、女性の活躍の場をこれからも作ってほしい。

自分自身としても綾部市に住みたいと考えているが、自宅は地元にあるため、移り住むとなると難しい。せつかくの住みやすい綾部、住みやすいまちとして、綾部市内に住まいができると定住にも繋がると思う。

座長：様々ご意見いただいているが、計画書として1期をベースに2期を作っていくにあたって、足りない部分等あればご意見いただきたい。こういった取組はどうか、といった意見もあればいただきたい。また、新規の部分で教育環境づくりが新たな視点として挙がっているが、こちらについて事務局から再度簡単に説明いただけるか。

担当部長：ひとつづくりはまちづくりということで、教育の大切さを、日々感じている。特に中学生の時期は流行を追う傾向があるが、綾部市の中学生は、都会はこわいので綾部が良いと話す子も多い。また市長から、大人になったときに綾部に戻ってくるか、という問いかけには、6割が「戻ってきたい」に手を挙げるという現状。そういった子どもたちの思いを大切に、

教育を積み上げていくことは重要と考えている。

また、中学1年生で市内の企業を学ぶ取組の実施、保護者にもふるさと教育を実施するなど、地元を知ること、地元を大切にすること、取り入れていく。

座長：目標指標の設定等についてもご意見あればいただきたい。観光入込客数が目標となっているが、来ていただくだけでなくお金を落としてもらうことが重要という意見もあると思う。またそれぞれの立場からのご意見いただければと思う。この会議が終わってからでももちろんよいので、ご意見は事務局の方に寄せていただきたい。

ではここで、せっかく各部局の長が集まっているので、ご意見等ある方はどうぞ。

委員：貧困層家庭への支援に関して、市内にそういった方が少ないから、取組としても少ないのかとも思う。しかし、そういった方への支援は重要で、束で収入を得る方への支援等、働き方の柔軟性を上げる取組が進んでいくと、人手確保にも繋がるだろう。

担当部長：貧困に関する部分としては、法改正も進められており、計画の策定も進める考えである。教育・就労・子育て等への幅広い経済的支援、総合的な貧困対策を進めていく考えである。

委員：そういった支援があることについての、民間への発信も検討して行ってほしい。

委員：この時期になると年末のたすけあい運動が実施される。たすけあい運動している際に、「何に使っているの？」という質問が多く寄せられる。そういった部分も含めしっかりと発信していかないといけないと思う。そういった不満な部分を取り除いていかないと、住民の協力は得にくくなるだろう。

担当部長：たすけあい運動としての事務局はかなり昔に市から社会福祉協議会に移管している。市が募金を集めて福祉の事業を行っていくことに疑問があつて、市は税金を基本として事業を行うべきとの考えから、社会福祉協議会への移管となったのかと思う。現在は社会福祉協議会の方で使い道の明示や理解促進も進めており、集めたお金は、公平に必要な人に届くように使われている。

座長：せっくなので、京都府職員から一言いただけるか。

京都府職員：私はまちの仕事人としての仕事を行っており、綾部に関しては移住のプロジェクトを進めている。これまで綾部駅に降りたこともなかったが、今年度初めて降り立ち、商店街を歩いてみた。安全で治安の良いまちという部分もあるかと思うが、市役所までの道を教えてもらい、なにより人の優しさに触れた経験をした。市として足りない部分もあるかもしれないが、強みをどう外部にPRしていくか。また住んでいる方に、地元がすごいんだということを知ってもらうことが大事であると思う。

6 閉会

以上